



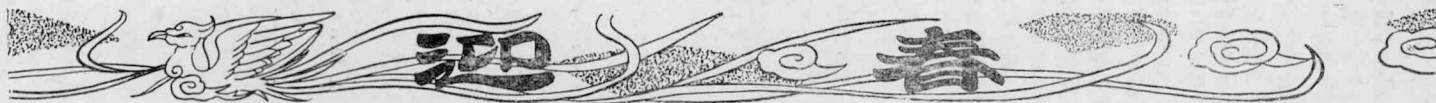
大 報 おおおじめ

昭和45年1月1日 No. 203

編集と 鹿児島県肝属郡大根占町役場
発行 企画室 企画係
(電話 大根占局 2-0511~0515)
印刷 逆瀬川印刷所 (電話 2-0140)

町の 昭和44年12月1日 現在推計人口
人口 男 5,236人 計 11,343人
女 6,107人
前月より 7人 増

1970年



新春を迎えて

町長 坂元 左武郎

明けましておめでとうございます。

昨年を振り返ってみますと「高度成長に伴う過疎受難の年」の一言につきるようです。わが国は、自由世界で国民総生産がアメリカに次いで二位になったことが喧傳され、一人当り国民所得二十位は闇に葬り去られたようです。しかしながら、高度成長をとげた反面に、消費者物価の上昇が大きい、貿易の自由化に伴う国際的な風当たりが強まってきたなどの問題点も生じているようです。このような経済情勢下において、大きな企業のない当地方では高度成長のありをまともに受けて過疎に始まり過疎に終わった一ケ年であったようです。

わたくしは、四十四年の行政始めにあたり重点施策として

- 1、役場職員の公務員意識の徹底と道徳心の高揚
- 2、道路の整備促進と産業の振興
- 3、中学校統合の推進

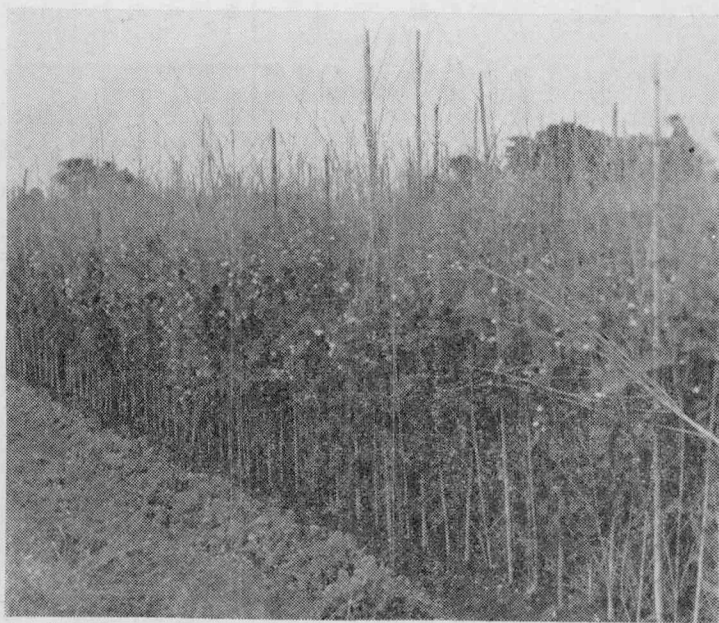
4、健全財政の確立

の四点を約束いたしました。いずれをとりましても過疎をふまえての施策であって、1については、現有勢力で研修を重ねて事務能力の向上に努めた、2については、町道・農林道の整備改良を行ない、経営の規模拡大を助長した、3については、任意の研究会を発展的に解消し、条例を制定して協議会を設け真剣に統合に取り組んできた、4については、大根占町の長期ビジョンを策定して、財政の健全化を図りつつ「住よい町づくり」を計画的に且つ着実に推進するため、総合振興計画の作成にとりかかり近く成案の予定であります。

高度成長に相対して地方の過疎現象は今後当分続くでありましようし当町の基幹産業である農業についても、国際的な動きの中において独自で解決できない問題も数多く取り残されています。

迎えましたことしも、より多難な年であることは想像に難くありませんが、今後も近代化された企業の経営への移行に努力することが、他産業との格差を縮小するための手がかりであり、その意欲を失ってはなりません。引き続き四十四年の施政四原則は継承してまいります。とりわけ道路交通網の整備・土地基盤の整備による産業の振興に重点をおくとともに「明るく住みよい町づくり」のため、皆さんがたの御協力・御理解のもとに山積した事業を遂行してまいります。

ことしも皆さんがたが御健康で各人の持場において精励され、よりよい年でありますよう祈念して年頭のあいさつといたします。



(左)のマークで市場を独占するビマン・きぬざや

とどまるを知らぬ 時の流れを見つめて

大根占町議会議長 川辺 盛康



つしんで新年のお祝いを申し上げます。科学の進歩、社会構造の改革に伴って、わたくしどもの日常生活の態様も、昔とはだいぶ異なっており、習慣といふものが、すたれつつある今日では、新年を迎える気持ちというものが、まただい

みんなで力を合わせて 明るい住みよい町に

大根占警察署長 丸野 主計



明けましておめでとうございます。昨年は国内治安の面で、一部過激学生による不法な集団暴力行為、記録破りの交通事故による尊い人命の消失、幼児誘拐や重要凶悪犯罪の発生など、社会不安と脅威をかもし、幸いにも当署管内では

本町の場合も、その例外でなく、人口の減少、特に若年層の流出はひどく、これに対応した行政のあり方、施策といふものに、真剣に取り組まねばならないときを迎えております。一方、農業施策の面にいたしても、非常にむずかしい問題ではあります。それなりの努力がなされなければなりません。更には社会福祉・環境衛生面の諸施策、学校教育など、山積する諸問題を抱えている町政であります。

迎えましたことしも、多難な年であろうことは予測に難くありませんが、議会は議会として、与えられた権利と範囲において、住民福祉に努めて参る所存であります。皆様方の御健康を、心からお祈りいたします。

社会情勢に対する見通しは困難ではあります。ことしもまた、日米安保条約の改訂をめくり、社会不安をかもしような事案が発生することが予想されます。

わたくしどもは、これらの事態に対処しつつ、町内の皆さんがたに密接した交通事故の防止、盗犯の予防・検挙、少年非行の防止、暴力犯罪の掃蕩を重点に地道な努力をする所存であります。あらためて皆さんのいっそうの御協力をお願い申し上げます。

皆さんがたの御多幸と御発展を祈念して、年頭のごあいさついたします。

元町長・県議浜崎節氏が十二月二十二日午前三時過ぎ永眠されました。つしんでお悔やみ申し上げます。(詳細次号)

自らのビジョンを持つ

大根占町農協長 坂口 不二郎



明けましておめでとうございます。昨年は月への到着、学生の騒動、師走の総選挙など、まことにめまぐるしい年だと感じました。

婦人会で 生活設計の学習を

大根占町婦人会長 前田 花子



でございますが、わがふるさととは何事もなく無事過ぎたことをお祈りいたします。私は婦人会が社会教育の上からは、重要なポイントにあることを感じさせられております。そこで婦人会の本年度(44年度)の努力点といたしましては、二本の柱を立てました。まず、青少年の育成に努める

農業を志す一人として

大根占町青年団長 福園 正志



新年おめでとうでございます。昨年末、衆議院が解散して総選挙が行なわれました。

する情勢にもついて行けるよう、県や町でもいろいろ検討されているようであります。県の二十年後のビジョン、農協の基本構想など、いずれも長期計画を立て真剣に農業を取り組む必要性を説いております。

わたくしども農協でも、その方向づけを検討しなければなりません。その資料として目下、農家の将来への営農・生活などにつき意向調査をしております。とにかく長期の計画は、未来に対してために家庭のしつけからと考えまして、各校区に標語の立札を立てました。

次に、四十七年度に備えまして、婦人会のスローガン「三不運動」、「花いっぱい運動」にそって、公民館の庭に花植えの作業を役員総出でいたしました。まず、実行に移すことだと思っております。

わたくし、九月に国内研修に参加させていただきました。西宮の公民館の施設が素晴らしいこと、長野市の婦人教育が進んでいる点、文部省にまいり婦人教育課長塩田マ子先生のお話に「婦人会は困っている調子に伸びました。グループ員が力を合わせて上げていく園は、けっしてわれわれを見捨てないでしよう。

農産物の自由化が続々と行なわれてまいりますが、これに伴いわれわれ農業を営む者にとっては、もっと自分自身の経営を見つめ、改善していくことが必要となってきます。いつまでも曲角に立ち止まっていたり残されたりしてしまっている人、追いつけなくなっている人、人に頼らず農業者一人一人が目を見開いて、確実

どうにかなる、なるようにしかならない、などとあきらめがちであります。未来は予言すべきものでなく、發明すべきものである。目標こそ未来を築く、ということばがありますが、そのとおりだと思っております。農家のみなさん自らのビジョンを持って町や各種団体の協力を得ながら、計画実現への努力を積み重ねられ本年こそ、町民すべてがしあわせな年になりますようお祈りいたしまして、新年のあいさついたします。

婦人に手をかけてやり皆と力を合わせお互いに自らをみ、考えるわたくしたちを育てましよう。婦人学級は、今まではさせる・きかせるであったが、現代は自らする・実行に移すことではなければいけません。また、生活設計も婦人会で学習していくように」とのことでした。

ことしこそは、この生活設計を婦人会で学習し、お互いに人生を明るく、また社会・町の経済を豊かにするために役立てようと思っております。

自分の道を歩くことがたいせつでしょう。

昨年は、グレイプフルーツが盛んに騒がれました。グレイプフルーツによってわが国のかんきつ類は、大打撃を受けることはまちがいないでしょう。みかん生産者としてこれからの多難な道を歩きながら自分との戦いに社会との戦いにいどんでまいりたいと思っております。最後に昭和四十五年がよい年でありますように祈念してあいさついたします。

〃中学校統合の行くえ〃

時代のすう勢とはいえ、本町もここ数年、過疎化の現象を生じ、その対策の一つとして中学校の統合が論議され、真剣に取組まれてきました。

生徒・児童は減少の一途をたどり、このような情勢のもとでは、教育効果はもとより投資効果についても問題があるとして、適正規模による学校の統合が望ましいという基本的な考えから、任意の研究会で論議されてきたが、更に統合を促進するため、この研究会を発展的に解消して昨年三月の第一町議会定例会で条例を制定し、「大根占町中学校統合推進協議会」が委員三十人で発足しました。

その後、情勢の分析、統合

計画の成案、計画の具体化など、実現の方向で年内に数回にわたって協議を重ねました結果、ようやく推進協議会としての統合計画の素案がまとまり、事務局で最終的に係数の整理をして、近く町長あて中間答申が出される見込みのようです。

しかし、これは経過を述べたもので最終結論ではありませんので、今後の情勢の変化審議の経過などからみて、まだ検討される余地は十分残されています。

その骨子となる事項を、あ

らましお知らせします。

あつさり

かぶとを脱ぎました

〃町内一周駅伝大会から〃

※順位()内は記録

宿利原中(2・00・05)、

池田中(2・02・30)、宿利

原青(2・06・19)、大根占

中(2・10・59)、神川青(

2・12・11)、以下、池田青

城元青、島井戸青、神之浜青

根占地区信組の順でした。

※区間賞(中学校と青年・一

般に分けて決定)

中学校の部

1―中馬浩一〃宿、2―鈴九

州男〃池、3―渡瀬照志〃宿

4―中馬勤〃宿、5―石川春

男〃大、6―園田芳文〃宿、

7―山元満〃大、8―前迫誠

〃池、9―福元浩二〃宿、10

は、次のとおりです。



(宿中のアンカー・佐々木君)

近とすることはどうか

2、統合の時期(三か年)

昭和四十七年：名目統合

〃四十八年：他は教場とし

て存続

〃四十九年：実質統合

3、通学方法(三つの方法)

(1) スクールバスの配置

(2) 自転車通学

(3) 徒歩

(4) その他

△バス会社との委託契約も考

えられたが、会社の都合で見

込みなし

△過疎振興法による行政バス

との関連で、考慮の余地あり

4、今後の推進方法は

中間答申をした後において

町・統合委・教委・三者で意

見調整をして、最終的な成案

を得てから、関係機関や住民

との懇談に入る予定です。

〃佐々木勝也〃宿

青年・一般の部

1―渡瀬幸徳〃宿、2―迫良

秋〃島、3―上園重年〃池、

4―葛浦富男〃神川、5―迫

良秋〃島、6―安楽重美〃池

7―厚々瀬新市〃宿、8―中

野徳義〃宿、9―美濃田光広

〃宿、10―迫良秋〃島

報酬・費用弁償・給与関係

条例の改正と予算の補正

〃八回町議会定例会から

本年第八回の町議会定例会

が十二月九日招集され、一般

会計決算の認定、各会計の補

正予算、給与・報酬・費用弁

償に関する条例の一部改正な

ど八つの議案を上程、審議し

て同月二十三日閉会しました

以下、そのあらましについて

、主なものだけをお知らせ

して、そのほかは次号にゆず

ります。

〃大根占町特別職職員報酬審

農村の若妻にも

研修の機会を

農村の若妻に大いに勉強し

ていただくこと、ことしから

新しい事業が始まります。

「農村若妻集団活動育成事

業」がそれで、農業改良普及

所単位に一所を県が指定し

県下二十九か所を実施される

ことになりました。

根占普及所管内では、当町

がその指定を受け、さしあた

り大根占校区内に居住する二

十五才―四十才までの農家の

主婦約六十人を、普及所・役

場・公民館で協議して選定い

たしましたので、今後個人ご

とに相談して一学級五十人で

発足します。

この事業は、農村の若妻に

共通する課題である、幼児が

いて家事に追われ対外的活動

がにぶりがち、家庭の基礎が

まだ固定していない、などの

不利な条件を補うため、農

△報酬月額を引き上げる。

()内は従前の額

議長 三万三千元

(二万四千元)

副議長 二万七千元

(二万四千元)

常任委員長 二万四千元

(二万八千元)

議員 二万三千元

(二万七千元)

注、44年12月1日から適用さ

れます。

〃町長などの給与月額が改正

されます。

大根占郵便局から

〃郵便貯金でスタートしよう

新春の初貯金を、次に成人記念貯金を、お勧めします。

〃傷害特約付簡易保険を

危険がいっぱいの現代に備え、思わぬ災害から、あなた

を守ります。新しく傷害保険金入院保険金も支払われます。

〃あて名にも、差し出すほうにも郵便番号を

〃郵便受箱、標札を掲げましょう。

成人の日の祝電は

お早めに電報電話局から

〃お望みの時間に配達を御希

望のときは、「配達日時指定

電報」と御指定ください。

〃翌日配達電報」として、

前日につくことが出来ます。

料金も普通電報の半額で、翌

日午前七時以後に配達します

〃百十五番(託送係)は、十

四・十五の両日はたいへん込

みますから、最寄りの郵便局

の窓口を御利用ください。

〃電話の応答がおそくても、

切らずにそのまま呼び続けて

ください。

〃次のうち、お好きな文例を



早掘りばれいしよ

栽培の考え方

従来、五十余ヘクタールが栽培され、四月下旬から五月にかけて収穫が行なわれていたが、価格が不安定であり、したがって、消費市場が望む三月～四月出荷を考えた栽培体系を考えなければ、暖地にあぐらをかいた園芸でしかありません。

主な栽培改善点は
1、植付期を十二月中旬とする。
（早植えは芽出が早すぎ寒害を受ける）
2、種子量は多めに、十アール当り百六十一百八十キログラム使用する。切り方は縦割りとし、切口が乾いてから植

早掘りさといも

栽培の勧め

冬期の温暖な気候を利用し更に科学性を加えて、収益の上る早掘り里いもの栽培が今下場地帯を中心に考えられ、農協で種子の手配などを行なっていますので、その栽培概要をお知らせします。

- 1、品種 石川丸早生を使用
- 2、一月中旬に温床をふみこみ、伏せ込みする。
- 3、本ば定植を二月中旬
- 4、植付け後ビニールマルチを使用し、トンネルを被う。
- 5、（たばこ作りにする）
- 6、途中追肥をする。
- 7、収穫 六月上旬より探り掘りし、下旬までに出荷を終る。
- 7、水田の場合は、後作を普



次のかたがたから、町の社会福祉協議会に寄附くださいました。厚くお礼申し上げます。

- ▲香典返しにかえて
松山 ツル（長左衛門）夫 五百円
- 矢野 哲雄（不二雄）長男 五千円
- △歳末助け合いに
民生委員・係員……千九百円
大根占ライオンズクラブ……一万円
- △錦江園のおとしよりに
大根占ライオンズクラブ……お金五千円・焼酎二本・菓子一箱・饅餅二こ

あなたの山は

間伐の必要はありませんか

町内の造林地で、下枝が枯れ上って間伐をしなければならぬ山がたくさんあります。枝の枯れ上りに注意しよう。

成長してきた造林木は、お互いに競争し合う状態になって枯れ上ります。大根や白菜の間引きと同様に、ここで込んだ林を抜き切りしてやらなければ、成長も衰えて、全体が共倒れになってしまう。※どのようにして間伐するか

戸籍に関する情報は
ホームページ上では
掲載していません

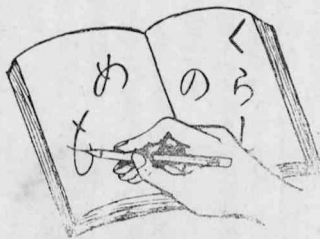
運木します。

※ その他
1、林縁の数例は、林地保護のため弱度の間伐をするか、むしろしない。

2、伐倒の季節は、成長の休止期間（十一月～二月）であればよいでしょう。
3、伐採した木は、森林組合を通じて鹿屋の木材市場に出荷して、有利に処分しましょう。現在、市場では間伐木のような小径木が高値で取り引きされています。

4、指導を受けたいかたは、遠慮なく林業普及所役場の経済課、または森林組合に相談してください。
（林業普及所主任 執印）

あけましておめでとうございませう。
黄菊・白菊のかおりがへやにたどって「ことしもよき年でありますように」と、ことしも始まりませう。
おとそを祝い、いつまでもまめに暮らせるようにと黒豆を、五穀豊穡を願って田作りを、子孫の繁栄と健康を願って数の子をいただき、おせち料理を味わってこの一年の無事を祈るのが、昔からのならわしでした。



おせちとは、節供の意味で本来正月・五月の節供などに供える料理のことをおせち料理といいますが今では正月の重詰め料理のことをさすようになりませう。

重箱には、五味（甘・酸・鹹・苦・辛）と五彩（赤・緑・黒・白・黄）を詰め、濃い味付けで保存食として正月の間、主婦を料理・家事の手間から解放するため、この習慣は生まれました。

一の重には祝いざかな（黒豆・田作り・数の子）、二の重には口取り（きんかん・甘煮・だて巻）、三の重には焼物の経済課、または森林組合に相談してください。しかし今日では皿盛りが行なわれ、料理のとり合わせも家族の好みに合わせて選ばれるようになりませう。特定の料理だけにかたよらず魚肉・野菜・卵乳製品をバランスよくとり合うようにしよう。